未来に向かって　一人ひとりが輝く北っ子！

今年もよろしくお願いします。「１年の計は元旦にあり」と「三日坊主」

１月９日の始業式の日の朝、久しぶりの登校で、いつもより張り切りながらやってきた北っ子達。「あれは、ひどい。」「お正月やのに。」と、口々に１月１日に起こった石川の地震について語っていました。新年早々の大災害は、子ども達にとっても、大きな出来事だったようです。

始業式では、今回の震災で亡くなられた方々のご冥福を祈り黙とうを行いました。その後、「１年の計は元旦にあり」について話しました。

１学期の終業式では、一人ひとりが楽しいと思う学校にするためにはどうしたらよいか、２学期の始業式では、「考え動き」「人とつながる」ためにどんなことに力を合わせたらよいかを子ども達に考えてもらいました。３学期のテーマはどんなことを「やりぬく」か、です。

見出しの「１年の・・・」は新しいことを始めるのには１月１日がよいという意味ですが、ほとんどの子が知りませんでした。さあ、北っ子達は何をやりぬこうと考えたでしょうか。ご家庭でも尋ねてみてください。「三日坊主」の話もしました。誰しも経験のあることではないかと思いますが、しかし、「三日坊主」を３回繰り返せば、９日もできたことになります。時々は休憩してもいいから、何か、「よし、やろう」と決意してやってみてほしいと思います。子ども達も、そして私たちも、新しいことにチャレンジするのにはよい時です。

「しあわせ運べるように」
地震避難訓練とメモリアル集会

29 年前の１月 17 日、阪神淡路大震災が起こりました。北小では、地震避難訓練と、メモリアル集会を行いました。石川の地震のことを思い、皆、これまで以上に真剣に訓練に臨んでいました。

メモリアル集会では、阪神淡路大震災の被害について学び、追悼の気持ちをこめて黙とうし、全員で「しあわせ運べるように」を歌いました。この歌は、当時、神戸市の小学校の音楽教師だった臼井真さんが、自身も被災されながら、神戸の復興を願い作詞作曲され、避難所となった小学校で歌われたのが始まりです。以後、神戸や多くの被災地で歌われ、神戸市歌にもなっています。

「地震にも負けない強い心を持って亡くなった方々のぶんも毎日を大切に生きてゆこう」
「希望を胸に」「生まれかわる神戸のまちに　届けたいわたし達の歌」

改めて見た 29 年前の被災の写真は、まるで今の石川のようでした。神戸・淡路は生まれ変わりました。臼井さんは「もうもとには戻らないけれど、新しく生まれ変わるんだという思いを込めた」とおっしゃっていました。石川の方々にも届くように、心を込めて歌いました。